

製品名: ヒスタミン H3 受容体ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12043**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	49kDa

抗原情報

遺伝子名	HRH3
別名	HRH3; GPCR97; Histamine H3 receptor; H3R; HH3R; G-protein coupled receptor 97
遺伝子 ID	11255.0
SwissProt ID	Q9Y5N1
免疫原	抗血清はヒト HRH3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 291-340

背景

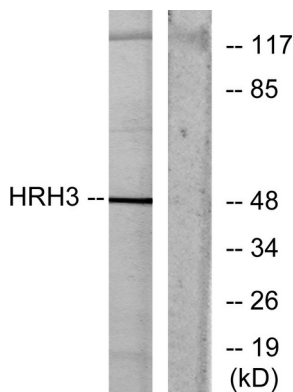
ヒスタミンは、肥満細胞、腸管クロム親和性細胞様細胞、およびニューロンから放出される普遍的なメッセンジャー分子です。その様々な作用は、ヒスタミン受容体 H1、H2、H3、および H4 によって媒介されます。この遺伝子は、G タンパク質共役受容体ファミ

リー1に属するヒスタミン受容体 (H3) の1つをコードしています。これは膜貫通タンパク質であり、神経伝達物質の放出を調節することができます。この受容体はまた、平滑筋における電位依存性カルシウム電流を増加させ、心血管系において血管と心臓を神経支配します。[RefSeq 提供、2008年7月]、代替製品: 追加のアイソフォームが存在するようです、機能: ヒスタミン受容体の H3 サブクラスは、中枢神経系および末梢神経系におけるヒスタミンシグナルを媒介する可能性があります。アデニル酸シクラーゼの阻害を介してシグナルを伝達し、高い恒常活性 (アゴニスト不在時の自発活性) を示します。アイソフォーム 3 に対するアゴニスト刺激は、アデニル酸シクラーゼ活性を変化させず、細胞内カルシウム動員も誘導しない。、その他: シメチジンおよびトリポリジンには結合しない。チオペラミド、イメチット、N- α -メチルヒスタミン、および R(-)- α -メチルヒスタミンには中程度の親和性を示す。アイソフォーム 4 はヨードプロキシファンに結合できないが、アイソフォーム 1 および 3 は高い親和性で結合する。、類似性: G タンパク質共役受容体 1 ファミリーに属する。、組織特異性: 主に中枢神経系で発現し、視床および尾状核で最も強く発現する。様々なアイソフォームは主に脳で共発現するが、それらの相対的な発現レベルは領域特異的に変化する。アイソフォーム 3 とアイソフォーム 7 は視床、尾状核、小脳で高い発現を示す一方、アイソフォーム 5 とアイソフォーム 6 は低い発現を示す。アイソフォーム 5 とアイソフォーム 6 は、扁桃核、黒質、大脳皮質、視床下部で高い発現を示す。アイソフォーム 7 は視床下部と黒質には存在しない。

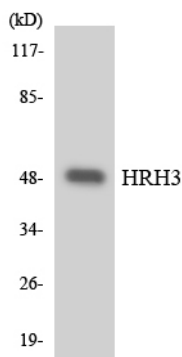
研究分野

神経活性リガンド-受容体相互作用;

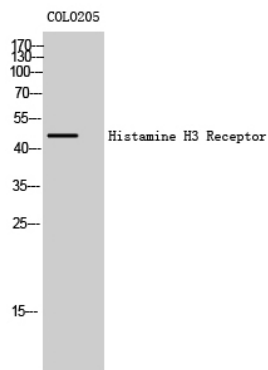
画像データ



HRH3 抗体を用いた COLO205 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



HRH3 抗体を使用した RAW264.7 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



ヒスタミン H3 受容体ポリクローナル抗体を用いた COLO205 細胞のウェスタンブロット解析